がん専門医養成コース　　がん薬物療法専門医養成

主科目 副科目	臨床腫瘍学 Medical oncology	DM_1601	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)

担当	教 授	准 教 授	講 師	助 教	客員教授・その他
板橋	◎関 順彦 渡邊 清高 (病院教授)		市川 靖子	本田 健 丹澤 盛	
–					
–					

	臨床腫瘍学Ⅰ (1年次)				臨床腫瘍学Ⅱ (2年次)				臨床腫瘍学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	臓器横断的な体系的知識を基盤とし、がんの総合臨床医として最新の臓器横断的ながん薬物療法について学ぶ。がん病理学および画像関連解剖学、各臓器がんの病態生理を学ぶ。意識障害、治療関連感染症などのがん緊急医療、進行がん診療に適切な対応ができる能力を身につける。がん遺伝疾患・がんリスク因子について学ぶ。がんの標準治療について理解し、緩和医療も含め実践できる能力を身につける。指導医のもと病棟主治医としてベッドサイド教育、他科からのコンサルテーションを履修する。				「臨床腫瘍学Ⅰ」の講義、演習および実習をさらに発展させ、がんの集学的治療の方針を理解し、関連科との良好な連携とチーム医療体制を指導ができる能力を身につける。新たな治療法開発の臨床的方法論(初期臨床試験、大規模臨床試験、メタアナリシスなど)を修得する。第1学年の内容に加え、病棟以外に外来実習(半日／週)を指導医のもとに履修する。				がん医療の総合医として、地域連携に必要な役割を理解し、複数診療科の連携を実践できる能力を身につける。 臨床試験のグループリーダーとして、国内・国外の新規治療法開発の動向を理解した上で、生物統計学について理解し、臨床試験のプロトコールを立案実施する。 講義、演習、実習、外来実習にて臨床経験を継続する。			
到達目標	・最新の臓器横断的ながん薬物療法に修熟し、安全に実施できる。 ・基本的がん病理学および画像関連解剖学をもとに、各臓器がんの病態生理を説明できる。 ・意識障害、治療関連感染症などのがん緊急医療、いわゆる腫瘍随伴症候群も含め進行がん診療に適切な対応ができる。				・新たな治療法開発の臨床的方法論(初期臨床試験、大規模臨床試験、メタアナリシスなど)を修得し、実践することができる。 ・がん患者の診療に必要なコミュニケーション技術を含めて、学部学生、研修医の指導をすることができる。 ・英文医学学術論文を要約、国際学会も含め自ら症例報告したり、指導医のもと自己課題研究を遂行し報告できる。				・転院、在宅診療等、円滑な地域連携に必要な役割を理解し、複数診療科の連携を実践できる。 ・集学的治療の方針を理解し、関連科との良好な連携とチーム医療体制にリーダーシップを発揮できる。 ・国内・国外の新規治療法開発の動向を理解し課題を説明できる ・生物統計学について理解し、臨床試験のプロトコールを立案できる。			
事前事後学修	最新の国際的診療ガイドライン(ASCO、NCCNなど)、国内各臓器がん関連学会診療ガイドラインをみておく 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				最新の国際的診療ガイドライン(ASCO、NCCNなど)、国内各臓器がん関連学会診療ガイドラインをみておく 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				最新の国際的診療ガイドライン(ASCO、NCCNなど)、国内各臓器がん関連学会診療ガイドラインをみておく 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	演習等の出席状況、発言の積極性や内容、学会発表等を評価				演習等の出席状況、発言の積極性や内容、学会発表等を評価				演習等の出席状況、発言の積極性や内容、学会発表等を評価			

■主な演習(講義・実習含む)

	臨床腫瘍学Ⅰ (1年次)	臨床腫瘍学Ⅱ (2年次)	臨床腫瘍学Ⅲ (3年次)
板橋	月 曜日 18 : 30 ～ 19 : 30	月 曜日 18 : 30 ～ 19 : 30	月 曜日 18 : 30 ～ 19 : 30
	Cancer board(臓器別、月1回)消化管、肝胆膵	Cancer board(臓器別、月1回)消化管、肝胆膵	Cancer board(臓器別、月1回)消化管、肝胆膵
	火 曜日 19 : 00 ～ 20 : 00	火 曜日 19 : 00 ～ 20 : 00	火 曜日 19 : 00 ～ 20 : 00
	画像診断	画像診断	画像診断
	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
	(別途指示)	(別途指示)	(別途指示)
–	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
–	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :
	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :	曜日 : ～ :

教科書・参考書

新臨床腫瘍学 改訂5版 編集 日本臨床腫瘍学会 南江堂 2018年
入門腫瘍内科学 改訂第2版 監修 日本臨床腫瘍学会 篠原出版新社 2015年
がん治療エッセンシャルガイド 改訂4版 佐藤隆美 藤原康弘 古瀬純司 大山優編 南山堂2019年
国立がん研究センターがん情報サービス http://ganjoho.jp/
各臓器がんに関する診療ガイドラインのサイト Minds(日本) ASCO NCCN MASCC ほか

その他履修上の注意事項

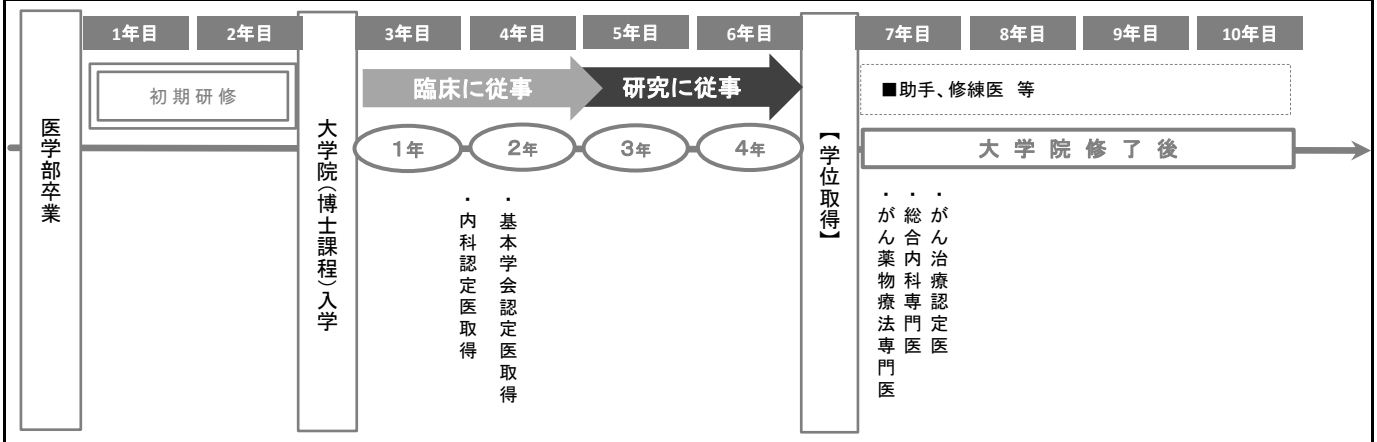
第1、2学年にあっては、指導医のもと病棟主治医としてベッドサイド教育、他科からのコンサルテーションを履修する。
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目		
	副科目	1)5大がん(消化器、乳腺、肝胆膵、呼吸器)関連学科、血液腫瘍学、緩和医療学、公衆衛生医学(臨床試験)などの関連領域を1科目以上、3か月コースまたは講義・演習コースにて履修する。 2) キャンサーボードは副科目とすることができる(通年で2単位)。
	共通科目	

関連する専門医資格

日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本臨床腫瘍学会薬物療法専門医、日本緩和医療学会専門医、
厚労省がん緩和医療研修会修了認定

キャリアパス(モデルコース)



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください。